

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策(案)		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	生徒の実情に合わせた教育内容・環境の充実を図り、教育課程の弾力化をさらに推進する。 授業の工夫・改善を進めるとともに、学習意欲を向上させる。	1 生徒のニーズに応じた、きめ細かな指導を組織的に実践する。 2 学習環境の整備を推進する。	1 多様な生徒に対する効果的な指導方法を工夫・研究し、指導内容を充実させる。 1 様々な場面において、生徒の自発的な学習の場を確保し、生徒の主体的な学習態度の育成を目指す。 2 新校移行における準備を推進する。	1 支援を必要とする生徒への対応状況は十分であったか。 1 生徒の意欲を向上させるための教材研究や自学自習への対応は実践できたか。 2 新校移行への具体的な準備は進んだか。	1 日本語支援の科目「キャリアアップⅠ・Ⅱ」がスタートし、システマチックな学習活動を実践することができた。 1 生徒の主体的な学習を目指した授業改善研修の充実を図ったことで、生徒による授業評価においても一定の評価を得ることができた。 2 高浜高校との意思疎通を頻繁に図り、基本コンセプトを共有することができた。また、地域との懇談会を実施し、移行に向けての具体的な作業に着手した。	1 現在の時間数で、日本語能力を高めることができるのか、担当者からの分析を得て、時間数及び「キャリアアップⅢ」の必要性について検討したい。 1 授業改善研修だけではなく、日々の授業における成果を高めるためには継続的に推進することが不可欠である。質の高いものとするために不断の努力を重ねたい。 2 二本立ての教育課程についての合意、生徒指導の基本について、高浜高校や地域の意見等を取り入れながら、その具現化を早急に行う。	(評議員) 外国につながる生徒に対する日本語の支援において、新たに科目を設定したことは素晴らしい。今後も、丁寧な支援をお願いしたい。 (評議員) 学習面に対する様々な課題を抱える生徒が多い中、先生方の学力定着への努力や工夫の大きさがうかがえた。ぜひ、継続的な支援を期待したい。 (評議員) 魅力ある教育課程を検討し、地域に密着した魅力ある新校を作ってもらいたい。	<成果>日本語支援科目の学校設定科目がスタートしたことによって、生徒個々に対する組織的な指導体制を構築することができた。 [課題]今年度の日本語支援の実績が十分であるか。 <成果>授業改善において、定期的な校内研修体制が確立し、共通理解を深めることができた。 [課題]新たな研修内容について、検討の余地があるのではないか。 [課題]新校の教育課程において、早急な具現化が必要である。	○日本語支援による日本語能力向上において、時間数等の検証を行い、更なる科目設定を検討し、体系的な支援体制を整えていく。 ○生徒による授業評価の分析結果をもとに、外部講師を招いた研修会の実施等、新たな研修内容を視野に入れながら継続的な授業改善に取り組む。 ○両校の共通理解を深めながら、担当者を中心に情報共有を行い、新校の大きな特色となるような教育課程の作成を協働して行う。
2 生徒指導・支援	支援を必要とする生徒への対応を充実し、安心して学習に取り組める学校環境を整え、基本的生活習慣の確立を図る。また、生活指導と交通安全教育の充実及び「心の教育」を推進する。部活動や特別活動の活性化を図る。	1 生活環境を整備するとともに、規範意識や公共心を養う。また、問題行動やいじめ、不登校等、生徒が抱える課題の把握に努め、未然防止に努める。 2 学校行事や部活動への積極的な参加を促し、生徒の生きる力を育む。	1 挨拶の励行などを通して、日常のマナーアップやモラルアップの指導を継続し、コミュニケーション能力の向上に努める。 1 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を深め、職員の情報共有を徹底することで、効果的な教育相談体制を構築する。 2 生徒が自主的に参加しやすい学校行事を企画し、自己肯定感の育成に努める。	1 登下校指導における声掛けや地域の方との情報共有は十分であったか。 1 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携は活発に行われたか。 2 年度に比べ生徒の参加状況は向上したか。また、充実感・達成感は得られたか。	1 登下校指導をほぼ毎日継続したことで、自ら挨拶を行う生徒が増えた。また、基本的な生活習慣も身につけており、授業態度も含め、全体的に落ち着いた雰囲気となりつつある。 1 以前にも増して教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携を深めることができ、効果的な教育相談体制を構築することができた。 2 学校行事への参加において、体育祭で0.8ポイント増加した。参加した生徒は意欲的に活動し、充実感・達成感は得られた。	1 今後も登下校時の声かけ、授業中の巡回等をはじめとした生徒指導や支援を粘り強く継続し、マナーアップを目指す。また、一部の規範意識が未熟な生徒への効果的な支援について、更に検討する必要がある。 1 今後もさらに連携を深め、生徒の抱えている課題の背景を把握し、必要に応じて年次会や職員会議での幅広い情報共有を模索する。 2 生徒会役員の主体的な活動を支援し、声かけやポスター作成など意識啓発を行い、さらなる積極的な参加を促す。	(評議員) 粘り強い生徒指導に感謝している。生徒たちの様子を見ると、だいぶ落ち着いてきたように思える。 (評議員) 現在の定時制の役割は非常に複雑になってきている。様々な課題を抱える生徒が多いと思うが、人間的なつながりを大切にして、社会への橋渡しとしての役割をお願いしたい。 (評議員) 先生方が本当に丁寧に生徒たちにかかわっている。学校行事の参加率が数値で比較されているのは、わかりやすくよい。	<成果>日々の地道な支援によって、生徒の規範意識や公共心が向上し、学校全体が落ち着いた雰囲気となった。 [課題]複雑化する生活指導案件に対して、効果的な対応策を検討していく必要がある。 <成果>教育相談システムを再整備したことで、スムーズで効果的な教育支援体制を構築することができた。 [課題]教育相談に関する職員との情報共有をいかに効果的に行うか。 [課題]学校行事への更なる参加率向上を目指す。新たな取組み方法について模索する。	○今後も、登下校時の挨拶運動や定期的な校内巡回、マナーアップ運動を継続的に実施し、生徒との信頼関係を築きながら、基本的生活習慣や規範意識といった社会人としてのかまを身に付けさせていく。 ○教育相談コーディネーターやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーはもとより、全職員が様々な課題にスムーズに対応できるように、風通しの良い情報共有体制を構築する。 ○生徒会による生徒参加型行事の企画について幅広く支援し、主体的な参加を促すような環境整備を行う。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策(案)		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	勤労観・職業観の育成を目指した進路指導の推進を図る。	キャリア教育やシチズンシップ教育の充実を図り、勤労観・職業観を育成する。	外部の機関を積極的に活用し、生徒の勤労感を啓発することで、自らの進路実現につなげる。	講演会などの回数は前年度より増えたか。また内容は充実していたか。	「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「職業一般」において、外部講師を招き授業を行った。その結果、幅広く豊かな内容となった。	授業時間数確保を視野に入れながら、外部連携やガイダンスをいかに授業計画に組み入れるか検討する必要がある。	(評議員) 一人でも多くの生徒が進路の希望を実現できるよう、学校としての工夫がうかがえる。今後も丁寧な支援を継続してもらいたい。	<成果>それぞれの年次において、外部講師を積極的に招いたことで、新たな社会観・勤労観・職業観を育成することができた。 [課題]体系的なキャリア教育をどのように年間指導計画に組み込むべきか、再検討する余地がある。	○今年度の実績をもとに、年次を超えた情報共有を行い、年間指導計画を見直しながら学校全体とした体系的なキャリア教育・シチズンシップ教育の充実を図る。
4	地域等との協働	保護者や地域住民等と協働・連携した教育活動を展開するとともに、環境教育の推進(ISO)に取り組む。	1 地域貢献活動を通じ、地域の一員である意識を育成する。 2 校内美化に対する取組を充実させ、ISOへの意識づけと環境教育を推進する。	1 学校行事等、学習活動を公開する機会を増やし、地域の方との交流を通じコミュニケーション能力を伸長させる。 2 清掃など奉仕的な活動の機会を増やす。また、日ごろからのリサイクル活動を通して、環境保護に対する意識啓発を行う。	1 公開した行事等の内容は向上したか。また、来校者は増加したか。 2 昨年度に比べ、清掃回数と参加者は増えたか。また、ごみの分別はしっかり行えたか。	1 「おもしろ音楽講座」では多くの地域住民が来校し、良い交流の場となった。 2 地域貢献活動として、平塚駅周辺の清掃活動を行ったが、参加率は31%と昨年より若干減少した。ごみの分別に対する意識は向上している。	1 生徒が直接的に地域の方々とコミュニケーションを図る機会をどのように提供していくか検討する必要がある。 2 参加率の減少をしっかりと検証し、課題解決に向けて組織的に検討する。また、参加した生徒は積極的に取り組んでいることから、清掃場所を拡大するなど、新たな取組みも模索する必要がある。	(評議員) 地域貢献活動をはじめ、地域の方々が参加できるような取組みを検討してもらいたい。	<成果>今年度も一定の地域の方々との交流を図る機会を持つことができた。 [課題]更なる交流の場をどのように位置付けていくか検討する。 <成果>地域貢献活動を通して、その意義や美化に対する意識啓発を行うことができた。 [課題]地域貢献活動への、参加率向上に対する取組みについて工夫する必要がある。	○防災避難訓練などを通して、地域自治体との協働的な活動を推進するとともに、ホームページを効果的に活用しながら積極的に情報発信を行う。 ○科目「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」において、環境美化に対する意識啓発を幅広く行い、地域貢献活動等の活動への参加を促しながら、参加率向上につなげる。
5	学校管理 学校運営	学校運営の改善に向けた取組を一層推進するとともに、安全対策を強化する。また、定時制の特色等に関する情報を発信し、地域から信頼される学校づくりを目指す。	1 学校関係者への教育活動の公開や情報提供、校内評価の説明等を十分に行い、学校関係者評価を充実させる。 2 学校ホームページの充実を図り、情報発信に努める。	1 事故防止をはじめ、生徒・保護者・学校関係者からの信頼を得られる評価を目指す。 2 学校ホームページの更新回数を増やす。	1 前年度に比べ、事故防止研修会の回数は増えたか。また、効果的に機能したか。 1 不祥事の件数はゼロであったか。 2 学校ホームページの更新回数は昨年度を超えたか。また、その内容は充実できたか。	1 定期的な研修会に加え、時宜を得た研修会を実施し、継続的な意識啓発を行うことができた。また、チェックシート等を活用することで、しっかりと振り返りを行うことができた。 1 年間を通して安心安全な業務遂行が徹底された。 2 情報発信量は昨年に比べ多少増加したが、更新回数は昨年並みであった。	1 今後も年間を通して継続的な意識啓発を行い、不祥事ゼロを徹底していく。また、外部講師による研修会も積極的に模索する。 2 外部に発信する内容について、再考する余地がある。また、新校に関する情報も積極的に発信していく必要がある。	(評議員) 今後も引き続き、安心・安全な学校づくりを期待する。 (評議員) 定時制は全日制に比べ、学校の様子が分かりにくいので、活発な情報発信をお願いしたい。また、新校の情報も積極的に発信してもらいたい。	<成果>定期的な事故防止研修会の実施により、年間を通して安心・安全な業務遂行を行うことができた。 [課題]継続した不祥事ゼロへの意識啓発をどうするか。 <成果>ホームページを中心に時宜を得て積極的に情報発信することで、情報発信量を増やすことができた。 [課題]ホームページの更新回数の増加について、具体的な方策を検討する。	○今後も具体的な事例を取り上げ、冷静に自己を見つめなおす事故防止研修会を実施し、継続的な意識啓発を行いながら、不祥事ゼロの徹底へとつなげる。 ○これまでのホームページでの情報発信に加え、地域の方々の関心が高い新校の情報を積極的に取り上げることで、その内容の充実と更新回数の向上を図る。